TOEIC e-Learning授業研究

‐2018年度函館高専４年生生産システム工学科機械コース英語演習ⅠA・ⅠB‐

奥崎　真理子1＊，平野　琢也2＊，丸山　隼人3＊

1\*函館高専, 2\*,  3\*（株）アルク

Email: okuzaki@hakodate-ct.ac.jp

**\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_**

**1. 研究背景**

函館高専では，5年間の英語必須単位は15単位であり，3年生修了までに12単位を履修する。専門科目の授業時数が4年生以降大幅に増えることから，4年2単位，5年1単位と，卒業前の2年間で3単位に激減する。しかし，高専4年生は，大学1年生と同年齢であり，翌年の前期に臨む就職試験や大学編入学試験に見合うTOEICスコアの獲得が求められる。更に，技術者として長く社会で活躍するために，自律型の英語学習ができるよう社会人基礎力を培うことが肝要である。

**2. 目的**

本稿は，筆者が4年生産システム工学科機械コース(以下，４SMと記す)のe-Learning授業に取り組み，TOEIC模擬試験のスコアを前期平均50点，後期平均50点，合わせて一年間で100点向上させることを目標に指導した実践を報告し，学生の成績やアンケートから見出された問題点を踏まえ，次年度以降の指導に生かす改善策を導き出すまでの取り組みの検証を目的とした。

**3. 実践結果**

(1)90%の学生が、e-Learning修了に適切と考えられた35時間を大幅に下回り,75％の学生が「不適切学習」を行っている。

　(2)トータルスコア350点未満の学生は、TOEIC模擬試験にかける時間がトータルスコア500点

以上の学生よりも30分少ない。

　(3)TOEIC学習不振学生に10分間の学習支援を2週間続けたところ、自己肯定感を高め、TOEIC

スコアを向上させた。

**4. 考察**

e-Learning学習を効果的に実施するためには，計画性と継続性のある学習体制作りが必要であるが，2018年度の教員支援は不十分であった。自己の学習に関するメタ認知を促し学生が自己の学びに責任を持って取り組める支援を工夫すべきである。

**参考文献**

Bandura, Albert (1977), Self-efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Change, Psychological Review 1977, Vol.84, No. 2, pp.191-215

鹿島和美（2018），青年期におけるリジリエンスについて：自己肯定感の視点から，龍谷大学大学院文学研究科紀要第40集，pp.79-102

小塚良孝 (2018) ，愛知教育大学におけるeラーニングを活用した英語学習―現状と展望―, 『教養と教育』18, pp.10-18

高島裕臣 (2006), E-learningを活用した授業によるTOEIC🄬スコアアップの試み, 呉工業高等専門学校研究報告第68号，pp.35-44